

TOSAギャラリー

夕刊 高知新聞 道場

店の隣の学校を買い取ってしまった人がいます。何屋さんでしょうか？ 英語で考えて。



となりの
ニューヨーク
木戸孝子

ピンホールカメラで

今回から、カラーの新作を発表していきたいと思えます。この作品は、去年の夏に購入したピンホールカメラで撮ったものです。

ピンホールカメラというのは、簡単に言うと、箱に小さな穴が開いているだけの、レンズのないカメラです。ファインダーもないので、自分の目で見て、「ここからここくらいまで写るかなあ？ たぶんね」といった感じで確認します。

私が手に入れたのは、香港製のゼロ・イメージという会社の、ハンドメイドの木製ピンホールカメラです。コレクターも喜びそうな、美しいカメラです。ニューヨークから、オンラインで注文したのですが、送料も込みで、二百ちょっとでした。

割と安かったので、大丈夫かな？ と思っていたのですが、このカメラ、中判フィルムが使える。それから待つこと十分、またはそれ以上。その間、イーストリバーを通る大きな船や、夕日の中を飛び交う鳥たちを眺めながら、友達とおしゃべりしていました。

船や鳥は、確かにカメラの前を通っていくのですが、長時間露光のために、動いている物は、できあがったイメージの中には写り込みません。景色を十分に楽しみながら、ゆっくり写真撮影ができる、というのがとても新鮮に感じました。

自分の家の中で撮影した時には、シャッターを切っている間に、食器を洗うこともできました。なんだか一石二鳥で得した気分がこのカメラ、今一番のお気に入りです。

New York
—Through The Pinhole
(East River)



きど たかこ 1970年、中村市(現四万十市)生まれ。フリーランスフォトグラファーとして、ムック本シネマキッチンなどの仕事を経て、2002年渡米。ニューヨークのインターナショナルセンター オブ フォトグラフィで学ぶ。

高知新聞(夕刊) 2008年6月26日

となりのニューヨーク -ピンホールカメラで-

今回から、カラーの新作を発表していきたいと思います。この作品は、去年の夏に購入したピンホールカメラで撮ったものです。

ピンホールカメラというのは、簡単に言うと、箱に小さな穴が開いているだけの、レンズのないカメラです。ファインダーもないので、自分の目で見て、「ここからここくらいまで写るかなあ?たぶんね」といった感じで確認します。

私が手に入れたのは、香港製のゼロ・イメージという会社の、ハンドメイドの木製ピンホールカメラです。コレクターも喜びそうな、美しいカメラです。ニューヨークから、オンラインで注文したのですが、送料も込みで、二百ドルちょっとでした。

割と安かったので、大丈夫かな?とっていたのですが、このカメラ、中判フィルムが使えるし、しかもパノラマなので、大きく引き伸ばしても想像以上に画像がきれいな、すぐれものでした。

そして、絞りはF/158! つまり、露光時間がとても長くかかる、ということです。これが意外と楽しいことに気がつきました。

晴れた日の露光時間は、一秒か二秒くらいで、それほど大変ではないのですが、夕方になってくると、十分、二十分、場合によってはそれ以上、シャッターを開けっ放しにしておかなければなりません。三脚にカメラをのっけて、ピンホールの上の小さなふたをずらして、穴を露出させます。これが、”シャッターを切る”作業になります。

それから待つこと十分、またはそれ以上。その間、イーストリバーを通る大きな船や、夕日の中を飛び交う鳥たちを眺めながら、友達とおしゃべりしていました。

船や鳥は、確かにカメラの前を通過していくのですが、長時間露光のために、動いている物は、できあがったイメージの中には写り込みません。景色を十分に楽しみながら、ゆっくり写真撮影ができる、というのがとても新鮮に感じました。

自分の家の中で撮影した時には、シャッターを切っている間に、食器を洗うこともできました。なんだか一石二鳥で得した気分のこのカメラ、今一番のお気に入りです。